

2026年4月10日

新宿区長宛て

団体名 特定非営利活動法人えがおさんさん
所在地 東京都新宿区高田馬場1-25-36
タイオインターナショナルビルディング 30C
(フリガナ) タナカ アユミ
代表者氏名 田中 歩

新宿区協働推進基金助成金交付申請書

新宿区協働推進基金条例施行規則第5条の規定により、下記のとおり助成金の交付を申請します。

記

助成金申請額 金 500,000 円

申請事業の分野 (該当の分野1つだけに○をしてください。なお、活動分野が複数の場合は、主要な分野に○をしてください。)		
<input type="radio"/> 保健・医療・福祉	<input type="checkbox"/> 災害救援	<input type="checkbox"/> 情報化社会
<input type="checkbox"/> 社会教育	<input type="checkbox"/> 地域安全	<input type="checkbox"/> 科学技術
<input type="checkbox"/> まちづくり	<input type="checkbox"/> 人権擁護・平和	<input type="checkbox"/> 経済活動
<input type="checkbox"/> 観光	<input type="checkbox"/> 国際協力	<input type="checkbox"/> 職業能力開発・雇用機会拡大
<input type="checkbox"/> 文化・芸術・スポーツ	<input type="checkbox"/> 男女共同参画	<input type="checkbox"/> 消費者の保護
<input type="checkbox"/> 環境	<input type="checkbox"/> 子どもの健全育成	<input type="checkbox"/> 市民活動支援
<input type="checkbox"/> その他		

助成事業計画書

団体名	特定非営利活動法人えがおさんさん
事業名	休日お預かりデイ活動
事業目的・事業概要	<p>< 事業目的 > どんな障害、また状態の子も楽しく参加できる日中活動を開催したい。ごきょうだいも参加し、オンリーワンを楽しんで頂きたい。</p> <p>学生はじめ、成人し社会に参加する当事者ボランティアとの異世代交流をしてほしい。子どもたちをケアできる専門職(看護師・リハビリ・介護士等)がいることでご家族に安心してご自分の時間をとって頂きたい。</p> <p>< 事業概要 > 難病・医療的ケアなど様々な障害のある児者とごきょうだいを年5回土曜日に10-15時でお預かり。</p> <p>パルシステム東京様の部屋をお借りしケアに特化した医療福祉職者と学生等ボランティアが対応。音楽など演者に講演依頼。お菓子やパンづくりや工作、ダンスなど計画。会場キッチンにて手作りの昼食を用意し皆で一緒に食事をとることも大切にしている。</p>
地域課題・社会的課題	<p>さまざまな難病・医療的ケアのある子ども達、障がい児が地域で生活できるようになってきたものの支援の手や社会参加先は追い付いていない現状がある。</p> <p>障がい児者、またそのごきょうだい児、それぞれのニーズは違い、親は常に対応に追われている状況がある。</p> <p>障がいや症状の多様性、専門性の高さからケアできる人は限られてしまう状況がある。</p> <p>ごきょうだいも一緒に、親と離れて参加できる場所もない現状がある。</p>
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害児・きょうだい児共に預かりができ、相互交流もできる場の提供。 ・ 日頃から障害児のケアに関わる医療福祉職者を確保することで、親が安心して任せられる。 ・ 多くの学生ヘルパー、また成人した知的障害、発達障害者もボランティアとして参加。世代間交流ができる。 ・ きょうだい児にもマンツーマンでボランティアが付くことで日頃障害児者のきょうだい児として位置づけられやすい子も一緒に参加しながらもオンリーワンを感じてもらう。 ・ 実施事業の開催ニーズに理解を頂ける施設、団体との連携。 ニーズに即した会場をお借りする。 ・ 学生にも企画から関わってもらい、参加者一人一人が楽しく安全に参加できる企画と態勢の整備。 ・ 企画に賛同し、出演、また協力して下さる演者や撮影者を募る。 ・ 普段関わることの無い親同士、きょうだい同士が触れ合う場づくりを意識して提供する。 ・ 医療福祉に関心のある学生が社会の中で生活している障害者・きょうだい児と直接触れあう場を提供する。

<p>先駆性・専門性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1995年頃から障害児者に特化した地域生活支援をしてきた。 ・2007年より小規模で障害のあるご本人、ごきょうだいの預かりを有志で開始。 ・日赤看護大学に学生サークルができ、学生ボランティアの確保ができるようになってきている。 ・2010年にはWAM助成金で規模を広げて開催し優良事業として紹介頂く。 ・障害福祉の制度化も進み、放課後デイサービスや児童発達支援など事業化している。 ・草の根時代より法人の活動を理解してくださる新宿区社会福祉協議会様よりさまざまな団体をご紹介して頂いた一貫で2013年パルシステム東京様とつながることができ、事業運営に即した会場を利用できるようになった。 ・コロナ禍でも訪問事業と連携し希望のご家庭とオンラインで会をつなげ、ご家族の孤立、閉鎖への対応をとるなど実施した。 ・医療福祉専門職、学生、地域ボランティアの確保により障害のあるご本人ときょうだい児両方の預かりデイが開催できる。 ・長年の活動を通し、都度の話し合いで難病、医療的ケアのある重度障害児者、また知的障害、発達障害のある児者とそのご家族など多様な課題、ニーズへの対応やリスクマネジメントを図ることができる。
<p>具体的な活動内容 (イベントが複数ある場合は、こちらのページを複写して作成してください)</p>	<p style="text-align: center;">イベント(会議)の開催予定等</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. イベント(会議)名:(休日お預かりデイ活動) 2. 活動内容:日中お預かりデイ 3. 実施期間、回数:年5回 5/16、6/20、7/18、12/5、2/20 全土曜日 (5月初回は法人負担及び参加費で実施し後半4回分の助成を申請します。) 4. 実施場所:パルシステム東京 5. 周知(募集)方法、期間:SNS,チラシ配布 6. 対象者・定員数:10名 難病、医療的ケア、知的障害、発達障害のある児者とごきょうだい児 ■ で述べたような会を安全に開催するために、都度実施体制の徹底を行っているため最低の定員を定めています。 7. 人員・スタッフ数 団体構成員()名 講師等(延べ)5組 アルバイト(医療福祉専門職)延べ50名 ボランティア(当事者成人含む)延べ 75名 団体内外へ募集をかける。 8. 安全対策等:感染対策備品の設置・準備 準備会議(勉強会)開催での参加者の状態把握、緊急時の対応共有 当日まで、また当日の流れ共有と動きのシミュレーション共有 デイ開催そのもののリスクマネジメントを共有する

	<p style="text-align: center;">イベント（会議）の開催予定等</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>1．イベント（会議）名：()</p> <p>2．活動内容：</p> <p>3．実施期間、回数：</p> <p>4．実施場所：</p> <p>5．周知（募集）方法、期間：</p> <p>6．対象者・定員数：</p> <p>7．人員・スタッフ数 団体構成員()名 講師等()名 アルバイト()名 ボランティア()名</p> <p>8．安全対策等：</p>
<p>期待される効果</p>	<p style="text-align: center;">ア 区民や地域社会への成果・効果</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・きょうだい児も学生ボランティアのマンツーマン対応で誰かのきょうだいとしてではなくオンリーワンの存在として対応。普段の関わりでは聞けない悩みなどをくみ取れる。 ・きょうだい児が地域の中では一人になってしまう状況があっても、この時は他のきょうだい児とも交流ができる。また多世代交流ができる。 学生に関わりは、障害当事者への影響、効果も著明で、覇気や意欲を引き出している。 ・ご家族、ごきょうだいも地域の顔見知りができることで孤立感の防止になる。 またごきょうだい共に預けられることで自身の時間を確保できる。 <p style="text-align: center;">イ 現状や課題に対する成果・効果</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・親の都合で子どもたちを預ける、より安全な環境へ本人たちが一人一人楽しく参加している間に親が自身の予定に集中できることで、日頃子育てやケアにばかり取られている親の気分転換、リフレッシュを図る。 その上で送迎時に他の親との交流が図れる(特にお迎え時)。 ・これから医療福祉職につく若者たちが、地域生活のリアルに触れる経験ができる。 ・子どもたち、ご本人、ご家族の存在を専門職にも実際に認知してもらえ る。
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の知名度が上がり、地域の課題やニーズが理解される。 ・関わる専門職が増える。 <p>令和7年度助成金を頂き活動の発展、マンパワー(専門職)の確保につながったと思う。安定的な活動へと期待したい。</p>

収支予算書

		費 目	予 算 額	内 訳
支 出 区 分	事 業 費	①使用料及び賃借料	円	
		②消耗品及び印刷費	88,000 円	文具：テープ、ペン2400円 工作材料費 5600円 おむつ交換用の防水シート8000円 食材費400円×45×4=72,000円
		③委託費	82,000 円	写真撮影カメラマン外部委託 30,000円 荷物運搬費 13,000円×4回
		④講師謝礼	280,000 円	演者5組 1組70,000円×4回
		⑤その他謝礼	480,000 円	ボランティア15名×3,000円(交通費含む)×4回 180000 事前勉強会・反省会2回×4回：謝礼3000円×25名×4回 300000
		⑥交通費	円	
		⑦保険料	円	
		⑧その他諸経費	円	
		⑨人件費	310,000 円	※下記「事業費」の25%以内 (310,000) 医療職2,000円×6時間×5人×4回=240,000円 福祉職1,600円×6時間×5人×4回=192,000円 合計432,000円
	事業費(①から⑨の合計)		1,240,000 円	
⑩ファンドレイジングに関する経費		円	※事業費の5%以内 (62,000)	
⑪助成対象経費 (事業費+⑩)		1,240,000 円		
⑫助成対象外経費		122,000 円		
事業総額		1,362,000 円		

		内 容	予 算 額	積算根拠(内訳)
収 入 区 分		㊦ 事業収入 (参加料、資料代等)	円	
		㊧ 寄附金	円	
		㊨ 補助金等収入	円	
		㊩ 協働推進基金助成金	500,000 円	助成金申請額 上限は50万円 「⑪助成対象経費」の1/2 ※千円未満切り捨て
		㊪ 団体負担金	862,000 円	
収入総額		1,362,000 円		